

漢詩を書く(6)

締切り 十一月二十四日(必着)

富士山 石川丈山					
仙	客	来	遊	雲	外
神	竜	棲	老	洞	中
雪	如	紈	素	煙	如
白	扇	倒	懸	東	海
				天	
辛亥歲旦 清芳書					

奥村憲照先生書

◎「漢詩を書く」の総まとめです。少々長いですが、集中して頑張って書きましょう。

◎まずは、用紙に対してのバランス、行間・字間、行の中心などを整えて書くことが大切です。

◎枠線はなくても結構です。体裁よく収めて下さい。

◎辛亥は揮毫された干支を表します。今年は「己丑」です。

富士山 石川丈山

仙客 来たり遊ぶ 雲外の巔

神竜 棲み老ゆ 洞中の淵

雪は 紈素の如く 煙は柄の如し

白扇 倒に懸かる 東海の天

雪の上にまでそびえる富士山のいただきは、仙人がやって来て遊んでいる。山中のほらあなの中の水の深みには神通力を持った竜が、長年棲んで年老いている。山をおおう雪は、扇に張った白いねり絹のようであり、山にかかる雲は扇の柄のようである。ちょうど、まっ白な扇がさかさまに、東海の空にかかったように、美しく聳え立っている。

作品の出し方

▼硬筆部 B5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)

▼毛筆部 半紙に書いて下さい。筆ペンも可です。

▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬・毛のどちらか一方に限ります。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕

〔読み〕 智者も千慮に一失あり 愚者も千慮に一得あり 史記

者 千 慮 愚

▶教範・書範は右課題を「行書」で、師範は「楷書」で出書して下さい。
運筆は常に軽く又同字形は変化を

智者も千慮に一失あり
愚者も千慮に一得あり

史記

おか だ りゅう ほう 書
岡 田 龍 芳 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕

始 人 事 半 分 終

中心線 中心線 右あがりに

終	事	始
え	を	め
て	半	た
い	分	人
る		は

おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

★始めた…(書体Ⅱ楷書)

ホラティウス(前六ヶ前)

古代ローマの詩人

口で言うばかりで実際に取っかからなければ、何一つ進歩はありません。とにかくまず始めることが重要なのです。実際に始めてしまえば、意外に道が開けるものです。くよくよ考えず始めてみましょう。もし思いどおりにならなくても、得るものはいっぱいあります。

◆12月課題予告(行書)

長命なるほど

大いなる福いなし

貝原益軒

★智者も…(書体Ⅱ行草または草書)

中国の正史『史記』より

前漢の司馬遷撰

すぐれた聖人でも多くのうちには、誤りや過失があります。また愚かな者といっても、たまにはよい考えをすることがあります。ですから人の行いについては、その都度、慎重に検討し対処することが必要となってきます。

◆12月課題予告(楷書)

自由は責任を意味する

だから大抵の人は

自由を恐れる

▼教範・書範Ⅱ行草または草書

▼師範Ⅱ行書

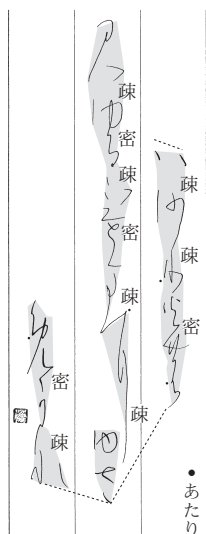
一般部かな課題

締切り 11月24日(必着)

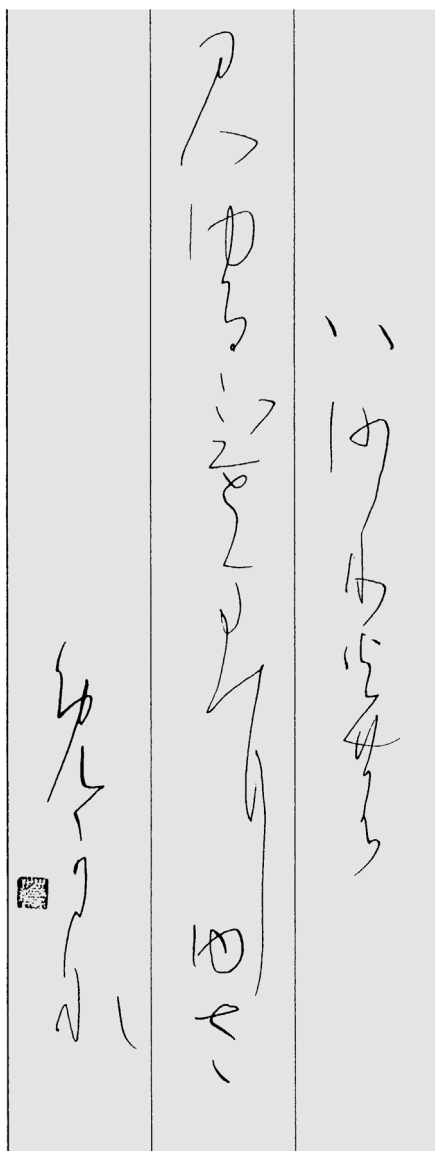
準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



漁火の見ゆる 飛と万耳ゆ 免可那



おぎ 荻 田 蒼 仙 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



漁火の見ゆる ひとま耳ゆ 可奈

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。



おぎ 荻 田 蒼 仙 書

▷用具=自由(黒色に限る)

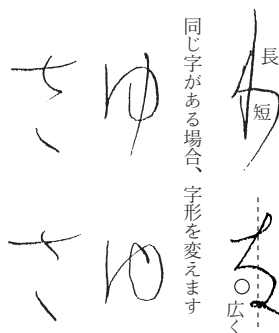
▷用紙=本会級位用紙

◆12月課題予告

打よする浪や千鳥の横ありき

(蕪村)

〔段位ワン・ヒント〕
散らしの方法は無限に広がります。それぞれの行の長さは異なりますが変化があります。太細、字間の広狭、字粒の大小等、そして三行は互いに呼応し連携して全体の景色づくりがなされています。手本を見ることが大切ですが、反面、最初は一部分だけでも手本と異なる表現をして、自分なりの作品が作れるようにして下さい。これには古典、あるいは偉い先生先輩の作からヒントを得るのです。次第に自信と喜びが湧いてきます。自分で作品づくりが出来ることは財産です。研修旅行では先生方からノウハウを学びましょう。

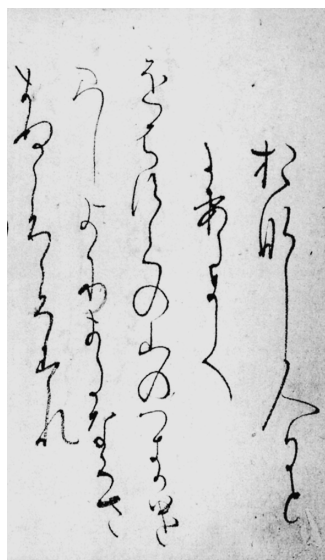


同じ字がある場合、字形を変えます

漁火の見ゆる ひとま (池内たけし)
〔句意〕海をのぞむ温泉場、漁火が沖にまたたく景を窓外に眺め、夜の冷気に湯ざめを覚えているの意。
〔級位ワン・ヒント〕
マスの中に心して美しく仕上げる努力をするわけですが……固有の大きさをもつ「かな」即ち大小を意識して書くのは難しいものですが、上位に進む以上必要なことです。連綿、放ち書き、「ひと」の直結法等ご留意下さい。

〔古筆参考〕

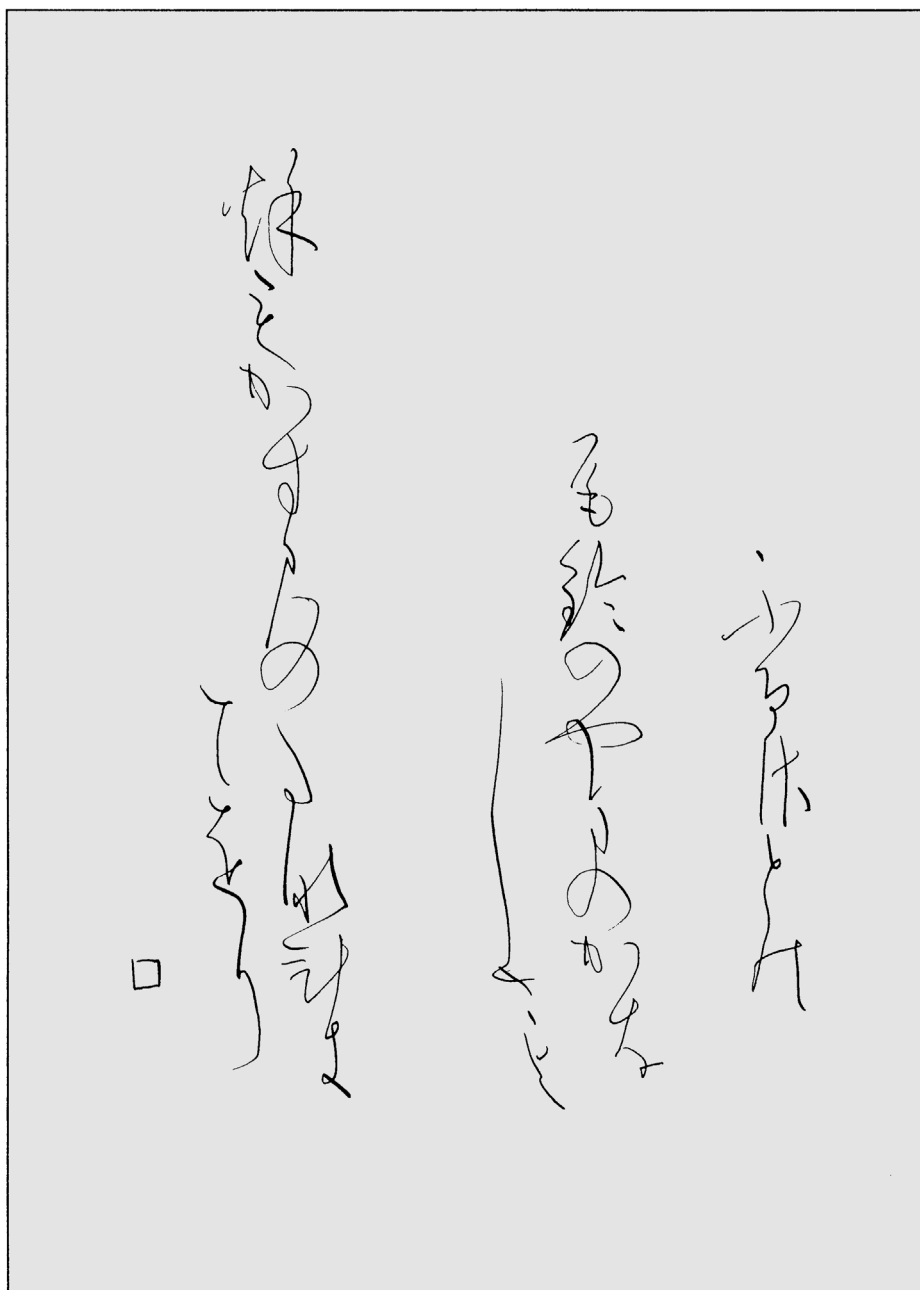
一条摂政集



おな
多
要
多
人
に
と
を
ば
す
て
の
山
の
つ
き
か
げ
み
し
よ
り
ま
た
な
ぐ
さ
ま
ぬ
こ
ち
こ
そ
す
れ

締切り 十二月二十四日（必着）

籾瀬舟香書

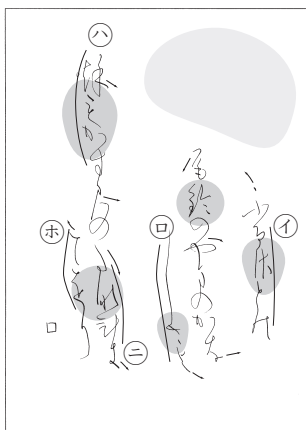


ふるさとの尾鈴の山のかなしさよ
秋もかすみのたなびきて居り

〔歌意〕私のふるさとの坪谷村から見えるあの尾鈴山に連なる山々よ、私が幼い頃からいつも眺めていたその山々は、あの頃と変わらずこうして今日の前にそびえている。秋でも霞のたなびいている姿は、懐かしく、慕わしく、せつないことだ。

〔出典〕名歌即訳 若山牧水

〔解説〕



- ・①と②、①と③、①と④、②と③、それぞれ呼応。
- ・一行の中の疎密、密の動き注意。
- ・○余白↓大きな間。
- ・の線の方向に注意

短い行

短い行を作ると、その上とか下に余白が出来、短い行・即ち大きな間が出来ます。白に接する行はそれに溶け込むように線の方向（指向性）や線の太・細に注意しなければなりません。ペンでも太・細の線が出る工夫が大切です。

◆12月課題予告

幾山河越えさり行かば寂しさの
終てなむ国ぞ今日も旅ゆく

（若山牧水）

締切り 11月24日(必着)

新型インフルエンザの猛威に困惑しています。お宅の教室では何か対策を取っていますか。先日中日新聞の電話取材でその件を聞かれ急いで消毒スプレーを買いました。よい情報があったら教えてね。

※草書を多用して書いてみました。それぞれに工夫して下さい。

◎手本は水性ボールペン使用

新型インフルエンザの猛威に困惑
しています。お宅の教室では何か
対策を取っていますか。先日中日
新聞の電話取材でその件を聞かれ
急いで消毒スプレーを買いました。
よい情報があったら教えてね。

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

おか じま けい せん
岡 嶋 桂 川 書

ライト兄弟が製作した飛行機は、
1903年、初めて空を飛んだ。

大阪市阿倍野区 氏 名

※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 11月24日 (必着)



〔出典〕集字聖教序（672）〔筆者〕王羲之書より集字
〔読み〕正教を詢求し、双林（ハハ水に、）



〔読み〕道治むるに玄黙を尚ぶ。
〔大意〕正しい道を治めるには奥深くして多言せぬが肝要である。

課題 かな筆毛部一般――

締切り 11月24日(必着)

新人から1級まで

浅井 機山 先生 書


 4. 10. 1911
 10. 10. 1911
 10. 10. 1911
 10. 10. 1911

赤く見^みえ青くも見^みゆる枯木^{かれき}かな

■ 準初段から師範まで
■ 課題とも文字の変換、ちりし方は自由です。


 1871
 1871
 1871

めづらしき光さし添ふひ可利佐 曾は
免さ可ちなからこそ干世も回らめめく羅

のぶかた
藤原信賢
〔出典〕

〔歌意〕皇子ご誕生のめずらしい光のさす祝の盃は、持ったままで、望

月のままで、欠けることなく、千年の空をめぐるのであろう。

〔出典〕 松本たかし

【句意】光線のぐあい微妙に色が変わる枯木の姿を詠んだものであり、印象派の絵画のごとき句。

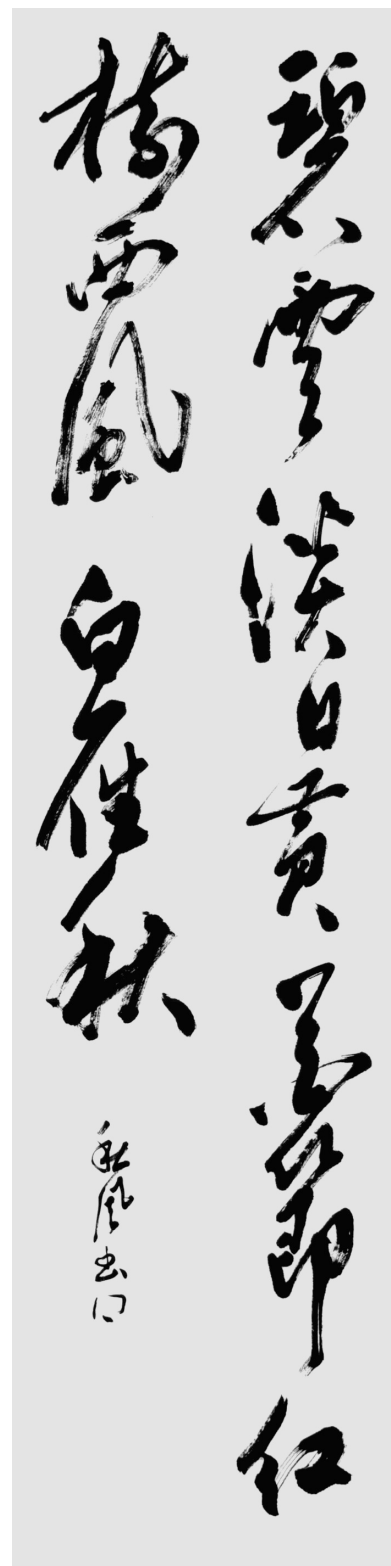
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題

締切り 十二月二十四日（必着）

半切（一三六cm×三五cm）

新井清泉先生書



〔大意〕青い雲、弱い日ざし、これは重阳九月九日菊花節。紅葉、西風、これは白雁の南に帰る秋。初出品の方へ
支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。

へきうんたんじつこうかのせつ
碧雲淡日黄花節
こうじゆせいふはくがんのあき
紅樹西風白雁秋
沈名孫

研修旅行で大変お世話になり
ました先生方の熱心なご指導と

皆様の温かいおもてなしにおへの

意欲が沸々とわいてきました

大野妙子

半紙（334mm×240mm）

ひらの こう ほう 書
平野高鳳書

〔古典字例〕



〔条幅解説〕創作への展開（角川書道字典より）

研修旅行では大変お世話になりました

先生方の熱心なご指導と
皆様の温かいおもてなしに書への
意欲が沸々とわいてきました

（ご自分の氏名）

・印で墨つぎしました。

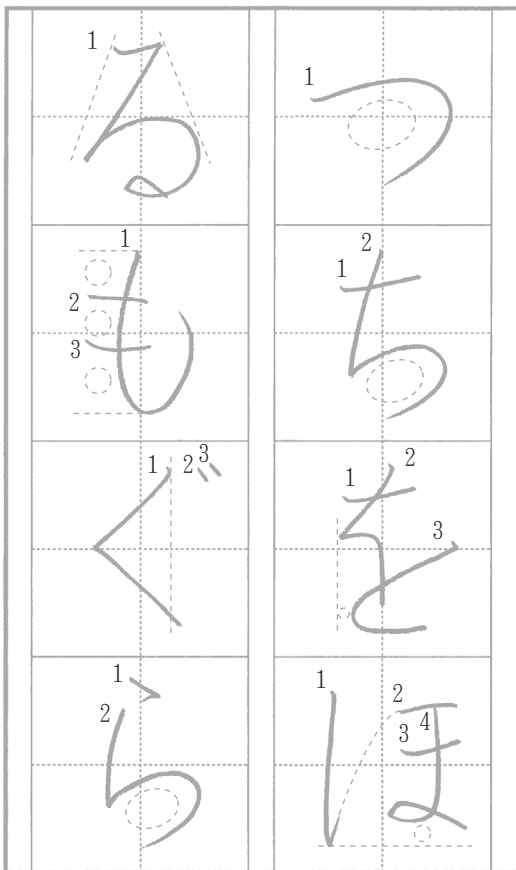
〔条幅・細字作品の出し方〕

■ 新入から師範まで、どなたでも出書できます。

■ 成績（天位、5等）は、評価により毎月変わります。

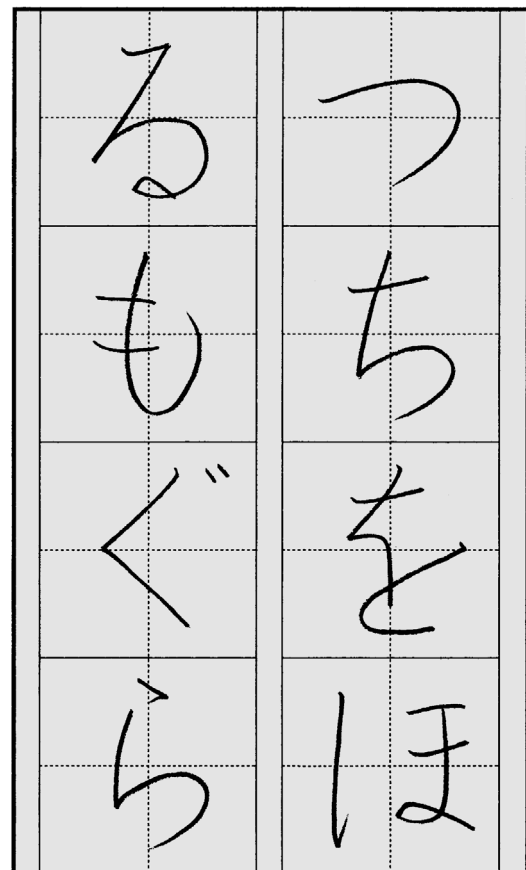
■ 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)



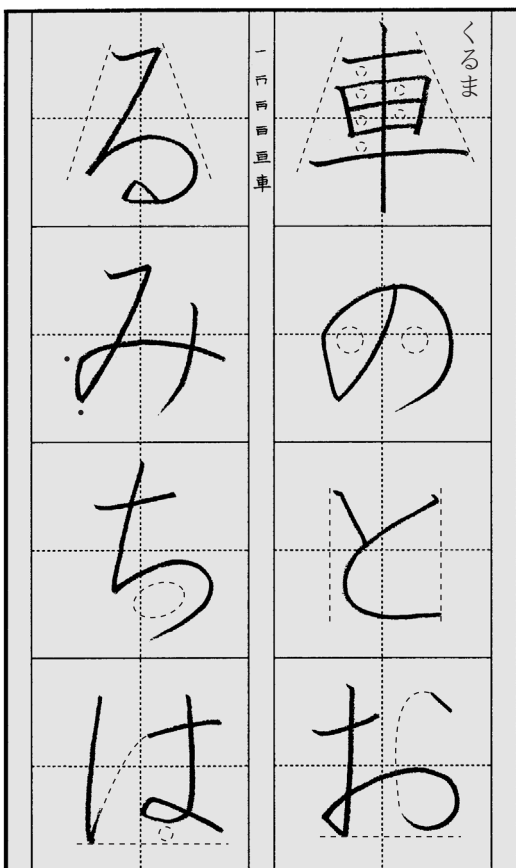
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



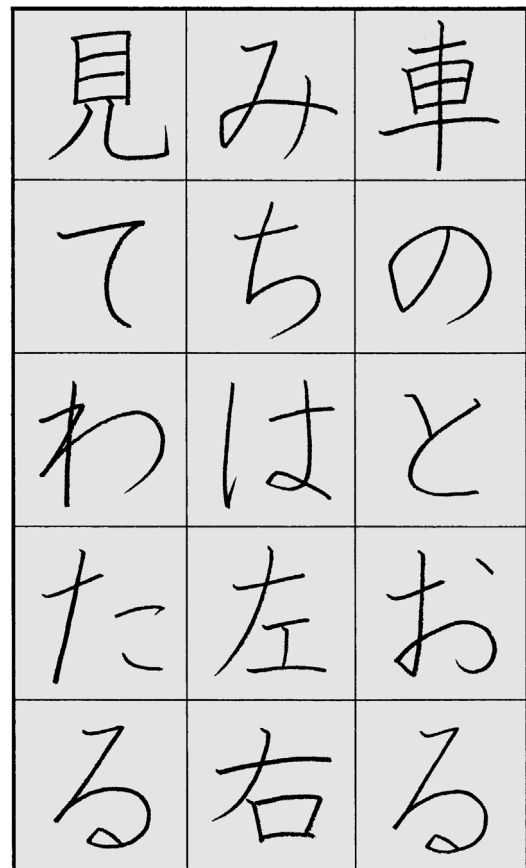
よ
う
年

小三年まで
三宅容玉書



新入1級

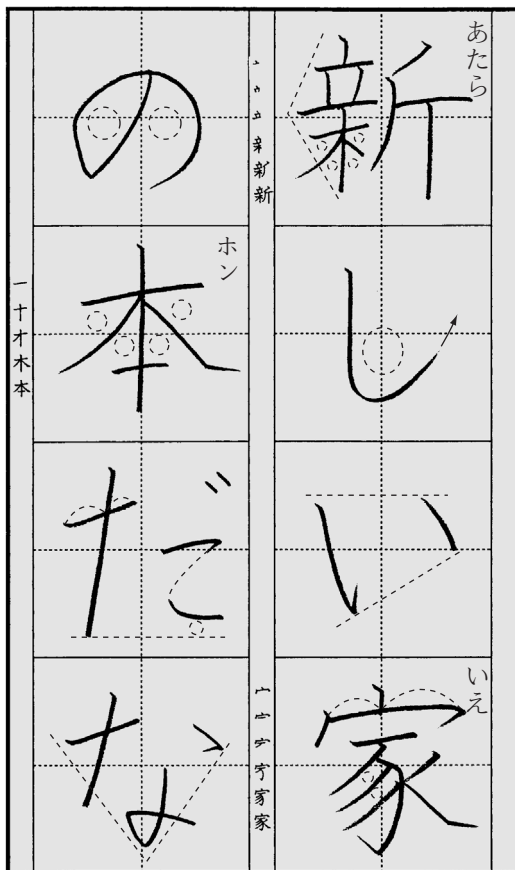
(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



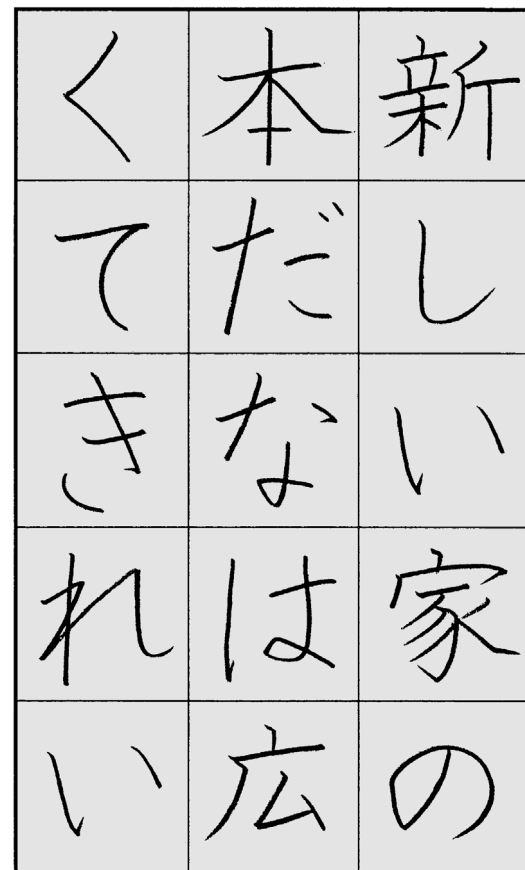
小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)

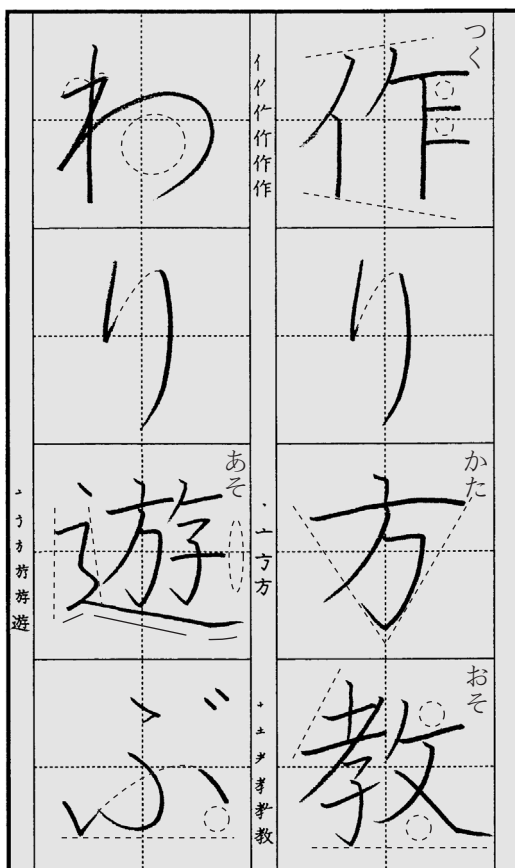


新入1級



小二年

準初段以上



新入1級

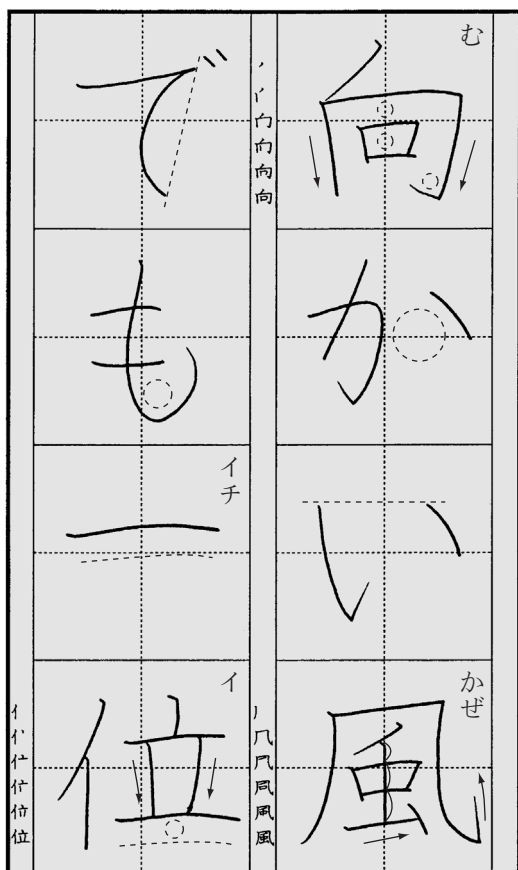
(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小三年

準初段以上

〈用具〉自由(黒色に限る)



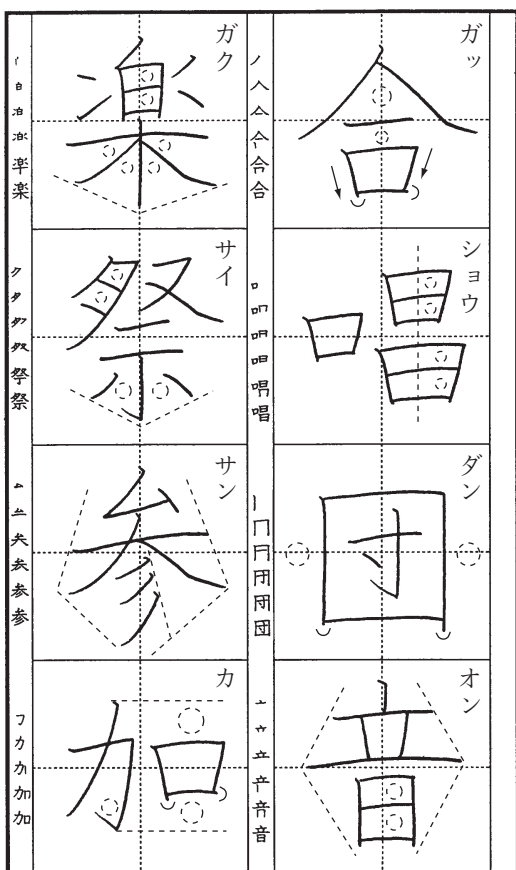
新入1級

小四年

準初段以上



解説(よく見て習いましょう)



小四以上 尾郷翠光書

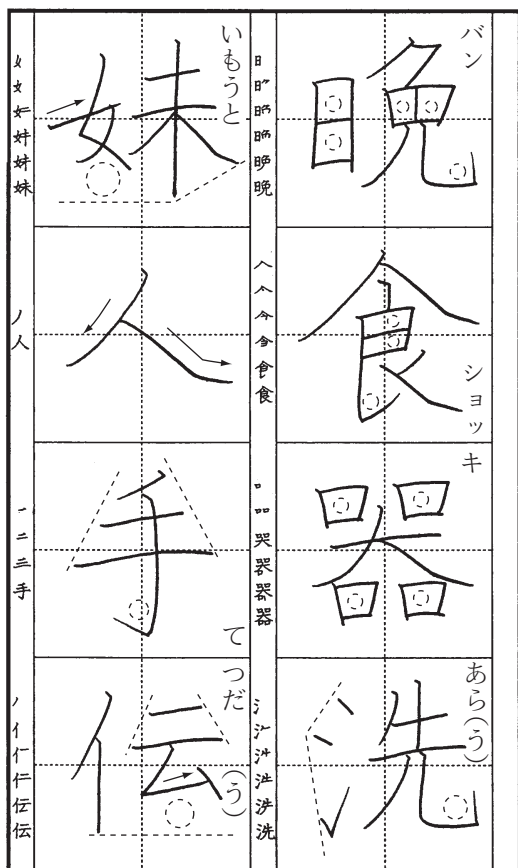
小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

小五年

(全員)



〈ようぐ〉自由(黒色に限る)



解説(よく見て習いましょう)

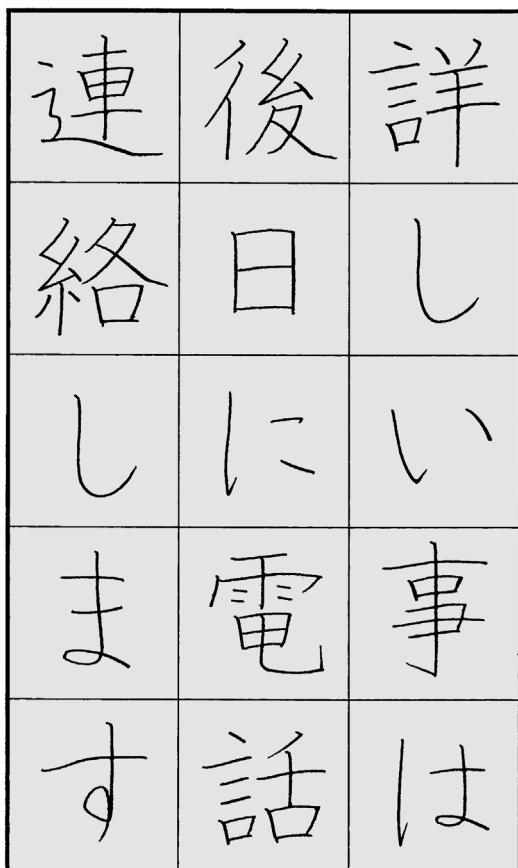
※一人一単語としてこのように読みます。



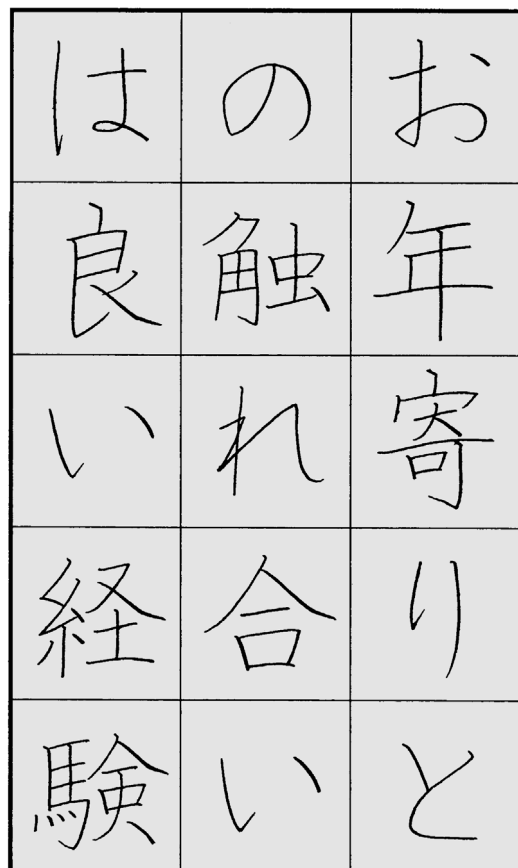
小六年

(全員)

◎お手本は、15マスはつけペン、8マスはデスクペンで書きました。



中二・三年 (楷書)



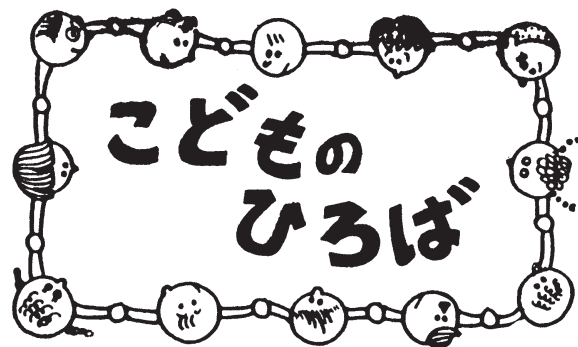
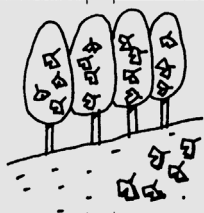
中一年 (楷書)

▼小三年以下の課題

はやし
林

せい
成 香 書

楽 ^{たの}	見 ^み	じ	い	黄 ^き
し	な	ゆ	ち	色 ^{いろ}
い	れ	う	よ	い
ね	た	た	う	
	道 ^{みち}	ん	の	
	も	で	葉 ^は	
			の	



しめきり 11月24日(必着)

習っていない漢字は、
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題

ふる かわ きょう か
古 川 京 佳 書

住 ^{じゅう}	衣 ^い	基 ^き	生 ^{せい}	衣 ^い
居 ^{きょ}	服 ^{ふく}	礎 ^そ	活 ^{かつ}	食 ^{しょく}
の	・	と	の	住 ^{じゅう}
こ	食 ^{しょく}	な	最 ^も	と
と	物 ^{もつ}	る	も	は
で		条 ^{じょう}		
す		件 ^{けん}		

◎お手本はつけペン使用

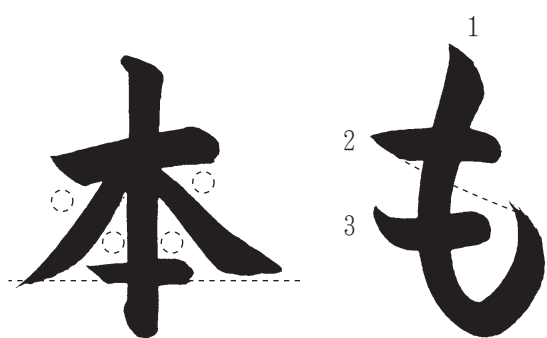
◇作品の出し方

- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
- 一、四行用紙に書く場合は、文章を収まりよく短くして下さい。
- 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。

◎お手本はえんぴつ使用



幼年／小二年
玉樹小
華書



祭音

小五

楽

方作

小三

り

風

作

楽

方

祭

長め

向

下をすぼめる

小四

い向

風か

小三、小五年

水野香竹書

中二・三
電話
連絡

小六
食器
洗う

器 洗 良
験 連 絡

左右の払いは
のびのび払う

中一
良
経
験
い